優秀賞

江差町立江差北中学校　２学年　髙島（たかしま）　紫音（しおん）

受け継がれる文化

みなさんの地域には何十年も大切に受け継がれてきた伝統文化はありますか。

私の地域には江差追分があります。江差追分は民謡の王様とも言われており、北海道無形民俗文化財に認定されている北海道がほこる民謡です。江差追分会は、その伝統を唄い継ぎ研鑽する支部であり、日本だけでなく遠くはハワイやブラジルにも江差追分を唄う仲間がいます。仲間とは９月の全国大会で江差に集まり全国一を目指して競い合います。

私は三歳から江差追分を習っていて大会では中学生以下が対象の少年の部にエントリーしています。

しかし、江差追分も新型コロナウイルスの影響で四年前から大会が中止になったり、開催に制限がつくようになってしまいました。昨年は関係者のみという制限付きで、ようやく開催されましたが、本来の形とはほど遠いものでした。さらに大きなコロナウイルスによる影響は、大会が出来なかった時期に、習っている人数が大幅に減少してしまったことです。少年も、江差支部は私が幼ない頃は二十人以上もいましたが、昨年、秋の地区大会では十人にも満たなく、春は五人しかエントリーをしていないという状況になってしまいました。

なぜ、このような状況になってしまったのか、自分なりに考えてみました。年齢を重ねて出場枠が変化したことや、大会の減少によりモチベーションを保てず、やめてしまった人もいると思いますが、何より、江差追分に触れる機会が減少してしまっていることが原因だと考えられます。特に、本場である江差支部は、その状況が著しく、新しく江差追分を始める子供が少なく、少子高齢化も相まって、追分人口がどんどん少なくなってきているのが現状です。このままでは、大好きな江差追分がなくなっていくのではないかと心配になり、ともに江差追分を唄い継ぐ仲間が減少していくことが悲しくなりました。そこで、江差追分に触れる機会を増やすにはどうしたらよいか、自分なりに考えてみました。私の中学校では学校祭で江差追分を披露する機会があります。唄うためにはプロの人の唄を何回もきき、一つ一つの節をしっかり練習します。何度も練習するので、みんながしっかり唄い、歌詞や唄の特徴など、追分のよさを実感することができます。唄う練習以外にも、江差追分のことを調べ、まとめるため、追分の歴史や背景について知るきっかけにもなります。

しかし、追分授業が終わってしまうと、唄うことも、唄をきく機会もなくなってしまうため、覚えていた歌詞や節などを忘れてしまいます。そのせいで、追分が楽しいという気持ちまで忘れてしまう気がします。

なので、まずは、江差追分の楽しさを忘れさせないこと、忘れないことが大切だと思いました。そのためにも、唄ったり、聞いたりする機会を増やし、江差追分は世界に誇れる伝統であるということを伝えていくことが大切だなと思いました。

先日、看護学院の江差追分授業へ行く機会がありました。追分を指導する先生が三味線をつけて本場の前唄、本唄、後唄の一本通しで唄った時、生徒の目がキラキラ輝いており学院の先生たちも唄をきこうとぞくぞくと集まってきていました。授業が終わった後、「すてきな唄だった。」「また聞きたい」などと話しており、その言葉が私の心に強く響きました。そして改めて、まずは自分も追分会の一員として幅広い世代に江差追分を知ってもらう努力をしようと決意を新たにしました。

そのために、師匠から本場の江差追分を学び受け継ぎ、自身のさらなる高みを目指します。そして、伝承者の一員として先人たちが大切に唄い継いできた江差追分の魂を絶やさぬよう、これからも努力し続けていきたいです。